
徒然闇詩集

墮運

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

徒然闇詩集

【Nコード】

N6389F

【作者名】

堕運

【あらすじ】

徒然な闇詩集です（．．．）∴タイトルまんまですね（．．．）
（．．．）救いの無い詩をつらつらと書いていきます（．．．）
皆様の応援で狂喜乱舞しますので、宜しければ応援して下さいm（
——）m

一枚目（前書き）

一枚目：『きる』『容れ物』『眼』『猿』の極短篇4作です。

一枚目

きる

端から望まなければ、また違った考えが生まれるんだろう。

端から覗かなければ、また違って見えてくるんだろう。

端から出合わなければ、また違った人を愛せたんだろう。

そうして貴方を斬って、貴方から逃げ切って、私はまた生きる。

わかってる、わかってる。

本当はわかってるんだ。

端から私が生まれなかったら、貴方も誰も傷付かない事なんて。

だから、お願い…

P l e a s e k i l l m e .

容れ物

貴方の事を愛しています…
貴方の心が欲しいのです…
貴方の愛を私に下さい。

私は貴方に言いました。

私の心が欲しいなら…
私に愛して欲しいなら…
心を容れる器を頂戴。

貴方は私に言いました。

困ったな…

心は何処に入るんだろう…

考えて…悩んだ私が造った容器。

心が入った貴方^{カラダ}ごと…
綺麗に納める貴方の棺。

眼

もう嫌だ

周りはみんな汚いんだ。

そんなモノなんて見たくない…

貴方さえ私の前に居てくれたら…

神様、どうか私のこの眼に…

綺麗なモノだけを映して下さい…

願いは叶った。

まず、貴方が私の視界から消えた…

猿

吐き出すだけなら、こっちが吐きたくなるよ。

自分勝手に果てるなら、相手なんて誰でも良いの？

自己満足に溺れるなら、私は寝ていても良いの？

もう、独りで鳴いてろ…猿が。

二枚目（前書き）

二枚目：『覗く』『球』『線』『泡』の四作です。また短篇ばかりですがね（．．．）

二枚目

覗く

もっともっと知りたいと

思えば思う程、深く覗きたくなる。

どうしよう。

視られてる、内側を覗かれてるんだ。

嫌だ嫌だ…

視られたくない。

誰に覗かれてるんだ？

感じた視線を辿ってみたんだ…

目の前には鏡が置いてあった。

球

貴方と私でキャッチボールが続かない理由…

教えようか？

貴方の投げる球は丸くても

私の投げる玉は丸いとは限らないから…

線

人混みは嫌いだった。

人も嫌いだった。

身を守る為に境界線をたくさん引いた。
物を見る時はフィルターを何枚も重ねた。

それでも、貴方は綺麗に見えた、

人嫌いだった私が貴方には惹かれていた。

貴方に守られなくて境界線を揉み消した。

貴方をちゃんと見たくてフィルターを破り棄てた。

全部消した私は…

貴方を必要としなくなっていた。

泡

一瞬だけで良い。

ハッピーエンドの後はそのまま消えてしまいたい。

花は綺麗に咲いた後、すぐに散ってしまうんだ。

ピーター・パンは飛び去って夢になってしまうんだ。

人魚姫は幸せなまま泡になってしまうんだ。

お伽話の本は読み終えたら、幸福な最後そのまま閉じられてしまうんだ。

幸福の直後は泡になってしまいたい。

きつと一瞬なんだって事は分かっているんだから。

でも、散る事も泡になって弾ける事も出来ない私は、終わりに怯えながら今日も生きてしまうんだ。

二枚目（後書き）

仕事柄、時間が不規則なので更新が遅れ気味です（・・・）
言い訳ですが：orz めげずに少しずつupしていきますので
読んでやって下さいm（――）m

三枚目（前書き）

三枚目：『糸』『ぐしゃ』の短篇二作です。

三枚目

『糸』

魔法をかけられて、

私は自分の左手の小指に赤い糸が見える様になった。

こんな自分と添い遂げてくれるのは、一体どんな人なんだろう…
興味本位で辿ってみた。

色々な人のすぐ傍を掠めていく糸は、私を一喜一憂させた。

ずっとずっと、ずっと辿ってきた…

薄々わかってきた。

糸の片側は、貴方に続いているのでしょうか？

ずっとずっと、ずっと辿ってきた…

きっともつすぐこの旅も終わるでしょう。

きっともつすぐ赤い糸は辿り着くでしょう。

赤い糸の反対が、私の右手の小指に結ばれていたのを見付けた時。

私は微笑みながら静かに眼を閉じた。

『ぐしゃ』

雨が霰に変わってきた。

雪よりも霰が好き。

雪は綺麗に隠し過ぎてしまうから。

傘も持たずに外を歩いてみる。

ぐしゃぐしゃ…と音を鳴らし足元が汚れていく。

ぐしゃぐしゃ…と落ち葉や土や煙草の吸い殻が、霰と混じり合っていく。

ぐしゃぐしゃ…と私はその場で足踏みを続ける。

ぐしゃぐしゃ…

雪は全て隠してしまうから。

一瞬でも、この世が綺麗だと勘違いしてしまうから。

私は雪よりも霰が好き。

ぐしゃぐしゃ…と黒く濁った足元を見つめてみる。

ぐしゃぐしゃ…と理由も無く足元を汚し続ける。

愚者愚者…と理由もなく自分自身を汚し続ける。

ぐしゃぐしゃに泣き崩れた顔のまま、
私は自分が雪で隠されるのを願った。

四枚目（前書き）

『ゴミ箱』『夢喰い』『灯かり（あかり）』の三篇です。

四枚目

『ゴミ箱』

掃除をした後に、ゴミ箱の中を覗き込んだ。

要らないモノ要らないモノ…よく分からなかったけど、邪魔なモノ…

一寸前まで別々だったモノ達が今は纏めて

「ゴミ」と言われる。

ずっと上から視線を感じた。

私はもう入っているのかな？
今はまだ入っていないかな？

ずっと上から覗き込んでいる奴に聞いてみた。

「神様、私はゴミですか？」

『夢喰い』

いつからなんだろう、

夢だけでは空腹は満たされないなんて事に気付いたのは。

そんな当たり前の事、まだ小さかった僕は分からなかったんだ。

いつからなんだろう、

夢だけでは大切な人を失う事になるって気付いたのは。

そんな当たり前の事、まだ愚かだった僕は見ないふりしてたんだ。

まだ小さくて愚かだった僕はそれでも夢だけ見ていた、

ただそんな僕の近くに居てくれた貴方は、何処に行ってしまったんだろう。

いつからなんだろう、

僕もあの時の貴方みたいにな、夢を見ている人の隣でずっと夢を喰いつづける生き物になってしまったのは。

『灯かり』

窓から見下ろし探してしまう。

部屋の明かりは消したまま。

来る筈無いのに探してしまう。

明かりを消しても灯らない。

部屋の窓からは、暗かった夜道がまだ見えるけど。

今はもうそこも、すっかり明るくなってしまっ…

こんなに明るくなつてたら、

もし、

貴方が帰つて来ても…

貴方の吸つてゐる煙草の灯が見えないじゃないか…なんて。

もう二度と

貴方が通る事など無い道を眺める。

真つ暗な部屋で煙草の灯かりを燈しながら、私は窓を閉めたんだ。

五枚目

『偽善』

中途半端な優しさで

のこの顔を出すな

所詮、興味本位

只の、自己満足

面の皮だけの笑顔に

何度も騙されてるな

所詮、自分本位

只の、偽善意識

何度助けを求めたって

お前は一度だって振り向かなかった

中途半端な正義を掲げて

吐き気がしそうな笑顔を浮かべて

今更、僕を受け入れるって

もし僕が信じてしまっても

お前が飽きたら

また棄てられるんだろ

可哀相だね

辛いんだね

もう大丈夫

苦しかったね

此処において

全部

薄っぺらい

全部

中途半端だ

全部

嘘なんだろ

格好をつけて着飾っても

結局は貴方の偽善的自己表現

もう振り回さないで。

六枚目（前書き）

籠女

六枚目

いつでもずっと一人きり。

此処には誰も居ないから

どんなに出たいと念つても
決して明かないこの扉

どんなに出たいと思つても
決して空かないこの扉

どんなに出たいと想つても
決して開かないこの扉

今、目の前で戸が開く

決して開かないこの扉

今、目の前で夜が明ける

小首に掛かる手は見えず。

六枚目（後書き）

以前書いた童謡&童話、勝手に解釈シリーズです（、・、）

七枚目（前書き）

朱い靴

七枚目

別にソレが欲しかった訳じゃ無かった

現状に抗う方法も解らずに

漠然と目の前に広がる時間を彩ってくれたのが
その人だったから

本当は抗う事や変わって行く事なんてどうでもよかった
漫然と浪費する事にだって慣れていたし

ただその色の誘惑に勝てなかっただけ

だから今は

惰性に身を任せ

ソレを身につけてその人の前で踊るだけ

もう周りに人は居ない

ただその人の前で踊るだけ。

七枚目（後書き）

なんかエロい（；・・、）

イメージ先行の解釈でつね（・・、）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6389f/>

徒然闇詩集

2010年10月21日20時39分発行